

第25回 棚田学会 現地見学会プログラム

「琵琶湖流域の棚田景観を読み解く ～受け継がれる水文化～」



スケジュール

【6月25日（土）】

時間	内容	場所	備考
12:30	受付	新旭駅東口	※参加費 13,000 円
↓	バス移動	針江公民館	
13:00～ 14:30	針江・生水の郷の 「かばた」見学 (3班に分かれて見学)	針江	※現地ガイド付 見学終了後、バス乗車
↓	バス移動		※木津荘跡を經由 ※滋賀県立大学・水野先 生の車内ガイド
15:30～ 17:00	畑の棚田見学 (3班に分かれて見学)	畑の交流館集合 (交流館の下の 広場に駐車)	※現地ガイド3名 ※仰木地区からも参加
17:00～ 19:00	夕食・交流会	畑の交流館	※仰木地区からも参加
↓	バス移動		
20:00	ホテル到着・解散	ホテル琵琶湖 プラザ	※ホテルに直行。途中下 車の方は、事前にお知らせ ください。

ホテル琵琶湖プラザ

住所：〒524-0102 滋賀県守山市水保町 2892-2

電話：077-585-4111

【6月26日（日）】

時間	内容	場所	備考
8:30	乗車確認、出発	ホテル駐車場	
9:10	乗車確認、出発	おごと温泉駅西口	
↓	バス移動		
9:30～ 11:30	仰木の棚田見学 (3班に分かれて見学)	仰木地区	※現地ガイド3名 ※成安造形大学・加藤先生も同行して案内・説明
11:30～ 12:20	昼食	平尾自治会館	★仰木地域活性化委員会による地域の食材を使ったお弁当（お茶付き）
12:30	乗車確認、出発		
13:00～ 16:00	シンポジウム	成安造形大学 聚英ホール	
16:10	乗車確認、出発		
↓	バス移動		
16:30	おごと温泉駅到着 解散	おごと温泉駅西口	

第 25 回 棚田学会現地見学会シンポジウム

「琵琶湖流域の棚田景観を読み解く
～受け継がれる水文化～」

主催 棚田学会

【日 時】 2016年6月26日(日) 13:00～16:00

【場 所】 成安造形大学 聚英ホール(200名)

【内 容】

本シンポジウムでは、湖から山まで、ひとつらなりの自然を生み出している琵琶湖辺集落をフィールドに、流域の観点から棚田景観の歴史的变化を読み解き、そこで暮らす人びとが受け継いできた水文化に対する理解を深めることを目的としています。

歴史や伝承、人々の営みの視点から、棚田とそこで培われてきた水文化を読み解くことにより、従来の棚田イメージを少しズラして、多様な棚田の読み解き方を提示することを試みます。また、大学と地域が連携した棚田保全の取り組みや調査研究と実践をつなぐ活動事例をもとに、世代をつなぐための工夫やしくみについて、みなさんと一緒に考えたいと思っています。

【参加費】 無料

【プログラム】

開会あいさつ(千賀裕太郎 棚田学会会長)

基調講演「歴史からみる近江の棚田」

(滋賀県立大学 水野章二教授)

報告①「仰木の宮座と水をめぐる伝承」

(成安造形大学 加藤賢治准教授)

報告②「水と暮らしを次世代につなぐ」

(びわこ成蹊スポーツ大学 嘉田由紀子学長)

パネルディスカッション

「琵琶湖流域の棚田景観を読み解く～受け継がれる水文化～」

司 会: 山本早苗氏(常葉大学 准教授)

パネラー: 水野章二氏、加藤賢治氏、嘉田由紀子氏、小坂育子氏(水と文化研究会 事務局長)

地域コーディネーター: 穴風光恵氏(成安造形大学 助教)、北井 香氏(滋賀県立大学 地域共生センター 特定プロジェクト研究員)

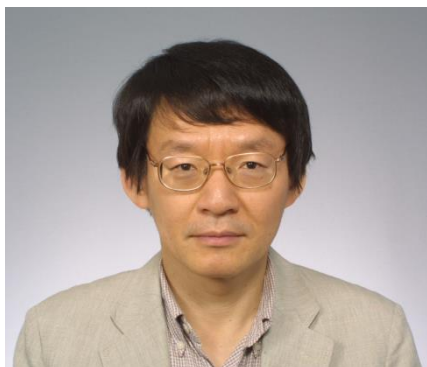
総括 (安井一臣 棚田学会研究委員長)

閉会あいさつ (山路永司 棚田学会副会長)

プロフィール

【基調講演】

滋賀県立大学 水野章二 教授



1954年名古屋市生まれ。京都大学文学部・同大学院文学研究科博士課程修了後、滋賀県立短期大学を経て、滋賀県立大学人間文化学部助教授・教授、博士（文学）。

専門は日本中世史で、中世村落・荘園の研究からスタートし、現在は環境史・災害史および地域史研究に力点を置いている。主な著書は『日本中世の村落と荘園制』（校倉書房、2000年）、『中世の人と自然の関係史』（吉川弘文館、2009年）、『里山の成立』（吉川弘文館、2015年）など。

【報告】

成安造形大学 加藤賢治 准教授



1967年、京都市生まれ。1991年立命館大学産業社会学部卒業後、高等学校地歴科教員を経て、1997年成安造形大学事務局勤務。2004年佛教大学大学院文学研究科仏教文化専攻修了、2011年滋賀県立大学大学院人間文化学研究科地域文化専攻博士後期課程単位取得満期退学。現在、成安造形大学芸術学部准教授、同大学附属近江学研究所副所長。主な論文に『村座と祭礼』－滋賀県大津市仰木地区の例－（2010年、近江地方史研究第44号）他多数。

びわこ成蹊スポーツ大学 嘉田由紀子 学長



1950年埼玉県の養蚕農家生まれ。京都大学農学部時代のアフリカ・フィールドワークから水と環境の大切さを痛感。アメリカ・ウイスコンシン大学大学院修了、京都大学大学院修了。農学博士。1980年代より水と人の関係性の研究を琵琶湖、アフリカ、アメリカなどで進める。滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て2006年滋賀県知事。2014年の引退まで公共事業見直しによる財政再建、子育て・

女性参画による人口政策、琵琶湖環境政策や原発政策などで新機軸を開く。『いのちにこだわる政治をしよう！』（2013年、風媒社）など著書多数。

【パネラー】

水と文化研究会 小坂育子 事務局長



1947年、三重県伊賀市生まれ。現在、水と文化研究会事務局長、子ども流域文化研究会代表、地元学ネットワーク近畿代表。生まれながらの田舎育ち、田舎性が気に入って結婚を機に比良山系の麓、旧志賀町（現大津市）に移り住んで40年近くになる。ホタル調査、水環境カルテ調査、地元学調査など20年以上にわたる活動のなかで環境や地域再生にかかわる。嘉田由紀子さんとの出会いが生活環境の世界に足を踏み入れる大きなきっかけとなる。主な著書「聞き書き 里山に生きる」（2003年、サンライズ出版）「台所

を川は流れる」（2010年、新評論）

【地域コーディネーター】

成安造形大学 穴風光恵 助教



2002年より「地蔵プロジェクト」のコアメンバーとして活動。地域の方と深く関わりながら、様々な企画活動・作品発表を通じて、地蔵信仰に限らない仰木の文化・伝承、風景の変容などを記録。2007年より地元農家の有志団体「仰木自然文化庭園構想 八王寺組」の幹事として棚田保全活動に参加。自治会や農業組合と連携を図り、仰木の農業後継者対策・農地保全・地域活性化をテーマに棚田ボランティア・棚田オーナー制度の運営等を行っている。現在、成安造形大学情報メディアセンター、共通教育センター所属。（芸術学士、環境科学修士）

滋賀県立大学 地域共生センター 北井 香(特定プロジェクト研究員)



奈良県の中山間地生まれ。京都精華大学人文学部環境社会学科卒業後、水害史調査、環境系NPO職員などを経て、現在滋賀県立大学地域共生センター 特定プロジェクト研究員。「畑の棚田」との関わりは大学3年次、半年におよぶ調査実践カリキュラムから。卒業後は友人等と棚田オーナーとして継続して訪問し、交流を深めている。

【 基調講演 】

歴史からみる近江の棚田

滋賀県立大学 水野章二 教授

1、近江国・滋賀県の空間的特質

完結性の高い地理的・歴史的空間（滋賀県＝近江国＝琵琶湖集水域）

近江（淡海・近淡海）……湖の国

特徴的な郡の配置……国境山地・平野・琵琶湖のセット、水系の特質をとらえやすい

近江は東国・北国と畿内の接点

都にさまざまな物資を供給する重要な経済基地

水上交通の重要性……琵琶湖は日本最重要の水上交通路

人力・牛馬では高コスト、古代の材木産地（山作所・杣）は琵琶湖・淀川水系に集中

日本海側……敦賀・小浜から陸路で琵琶湖、船で大津・坂本、陸路で京都

東日本……鈴鹿山脈をどう越えるかがポイント、東山道（中山道）・東海道、八風越も鎌倉初期には文献に登場、水上交通ともリンク

京都との境界に最大の寺社勢力比叡山延暦寺、交通・流通に大きな影響

早くから山野の開発が進む……棚田・里山の成立過程を検討できる史料

2、近江の棚田

滋賀県では、4万9200畝の水田面積のうち、4.5%の2200畝が棚田

小規模な棚田が多い、棚田百選には高島市畑の棚田が選出

①湖西地域仰木（大津市）

滋賀県としては広い棚田面積

天長8年(831)に円仁によって開かれた延暦寺三塔の一つ横川につながる地域

9～11世紀の延暦寺関連工房（須恵器窯跡など）が天神川流域の上仰木遺跡・仰木遺跡（小椋神社周辺から西部上流地域）で確認、下仰木天神山遺跡（下仰木東北 部から衣川にかけて）では6世紀後半～7世紀の須恵器生産窯跡

荘園鎮守小椋神社（延喜式内社）

横川は10世紀半ばに良源によって本格的整備、その後恵心僧都源信の活動拠点

仁安4年(1169)横川中堂再建に仰木杣工召集（『山門堂舎記』）

上仰木遺跡から12世紀～15世紀の集落遺跡、12世紀後半から13世紀を中心とした富裕層の居宅遺構検出、棚田開発の基礎

仰木荘の四至・耕地面積など、開発過程を示す文献史料は残されていない

南北朝期に、延暦寺青蓮院・妙法院門跡間で仰木荘支配をめぐる武力衝突

開発は用水の豊富な上流域からの可能性、上から下へ棚田が展開

限られた用水を下流部が確保するため、最下流の水田所有者を水利管理責任者（井堰親）とする井堰親制度が成立

②湖西地域畑（高島市）

平安後期の撰家領三尾杣（庄）に含まれる可能性大

比良荘絵図（原本は鎌倉・南北朝期、室町期の写し）に「奥畑」として集落が描かれる

鎮守八幡神社に応永3年(1396)鰯口、慶長7年(1602)検地帳で18町余の田地

用水は豊富、河川灌漑（畦越なし）、冷水対策（手溝）、石垣

③湖東地域熊野（日野町）

修験の地、日野川源流域、近くに滝、鈴鹿大河原越に接する

周辺部は平安期から開発（摂関家領小椋荘・日野牧・西明寺領など）

元応元年(1319)日吉社社領注進記「熊野南庄・北庄」（面積・四至などは不明）

慶長7年(1602)検地帳で6町ほどの田地、用水は豊富、河川灌漑、土坡

近世には草山・柴山化、山林紛争多発

鈴鹿安楽越が近くを通る三重県亀山市網中遺跡で11世紀からの棚田遺構確認

3、棚田の開発—山門領木津荘（現高島市）の事例

天台座主直轄の重要荘園、平安・鎌倉期の若狭交通の拠点港木津

室町初期の2種類の詳細な帳簿、多様な村落を包摂（琵琶湖と山地が接近）

ただし70年代に圃場整備

饗庭野丘陵東部は圃場整備前には棚田的景観、畦越灌漑多い、湿田・半湿田が多数

低税額（1段当たり3・4斗、平地部は5・6斗）、開田率低い（5段以下多数、平地部が7～9段が多い）

山畠・定畠・水田（棚田）、集村化も遅れる（平地部では現在と同じ集落形態確認）

傾斜の緩やかな水量の多い地点は9世紀後半に開発（延暦寺施入田）、全体としては平地部の開田が飽和する過程で、傾斜地の開発も進行、下から上へ押し上げる開発

近世初（日爪慶長7年検地帳）で現在に近い水田面積（約30町）

鎌倉初期から「後山」（里山）めぐる紛争が継続、16世紀には「草山」化

湖岸域では環境変動により港湾立地変化、日常的な水位変動

4、おわりに

水田開発は最も効率的で条件に恵まれた地点から開始、その後に条件の劣る地域に及ぶ

棚田は相対的に開発が遅れるが、条件によっては早くから開発が進む

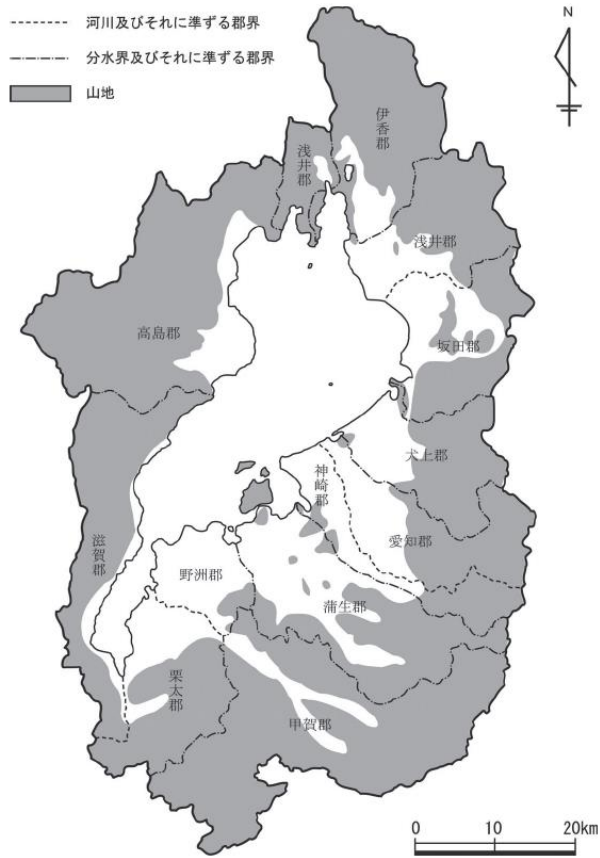
場所の重要性・水利条件など、そこに居住する意味が大きければ、少々無理をしてでも棚田は開かれる

近江は開発が古く、早い時期に成立したものが多く確認

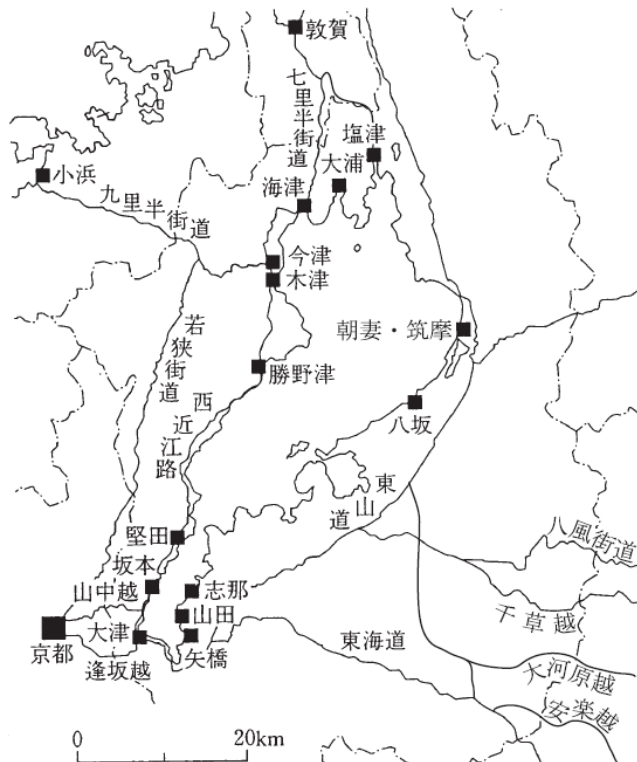
日爪・畑・熊野の近代の棚田は近世初の田地面積と大きくは変わらない

里山（「後山」など）に関する鎌倉初期からの史料も豊富で、資源をめぐる紛争・管理強化などの過程が分析可能

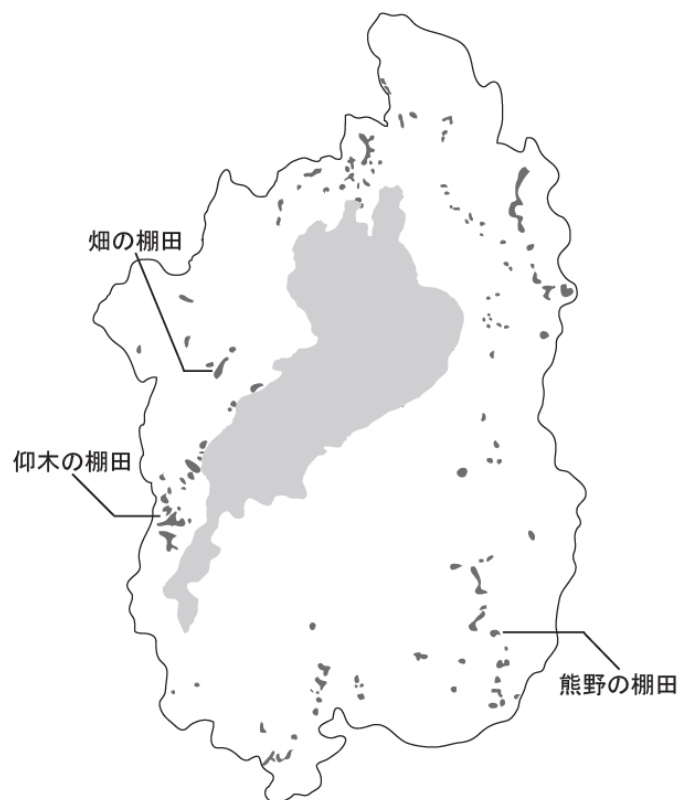
資料1. 近江の郡界



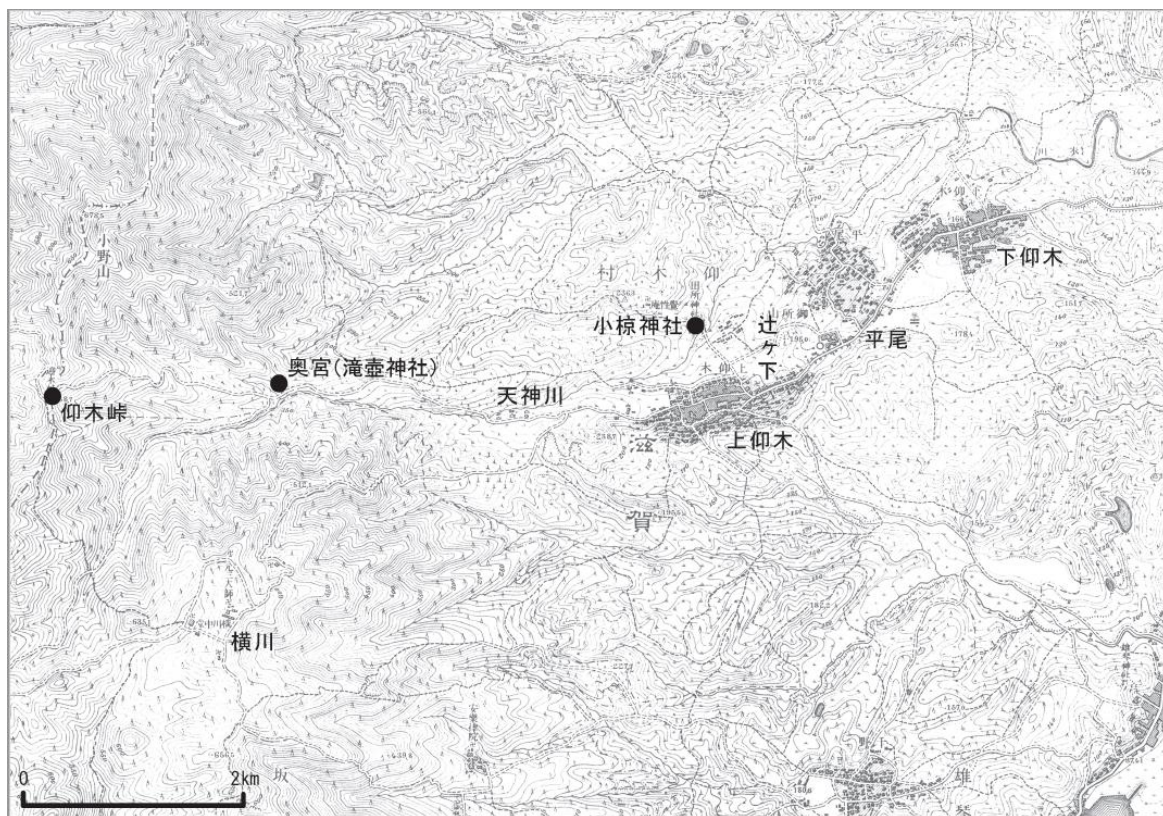
資料2. 近江の交通路



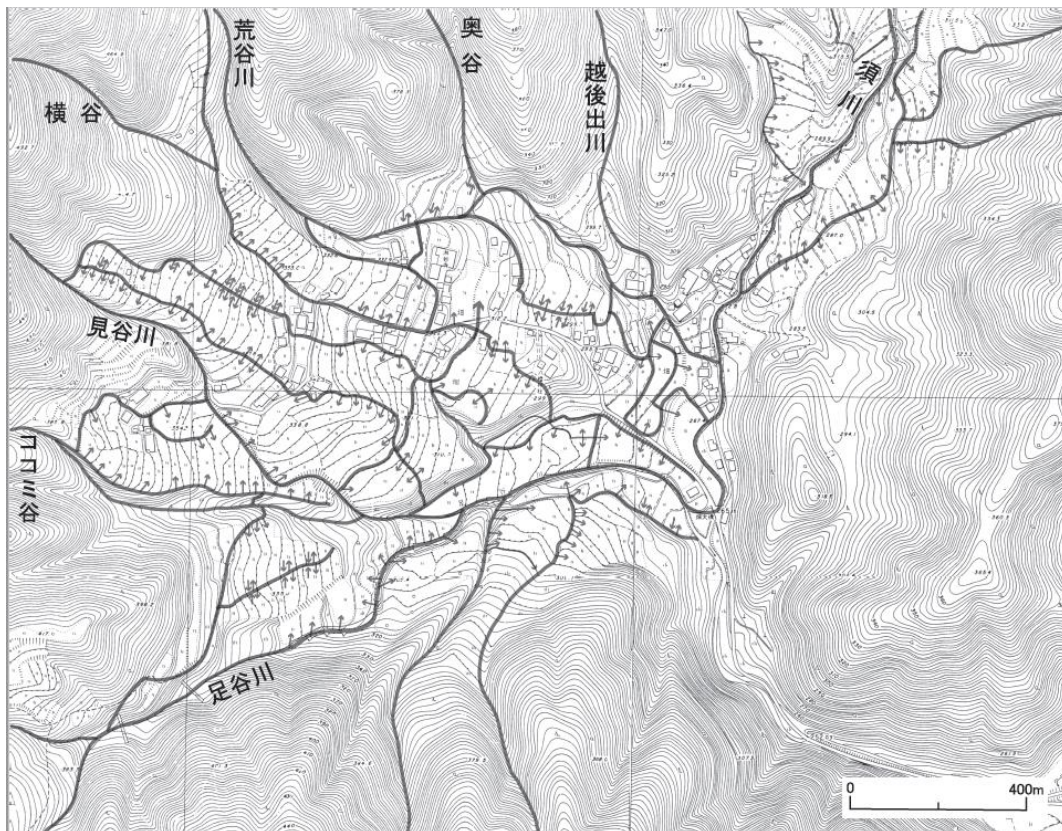
資料3. 滋賀県 棚田分布図



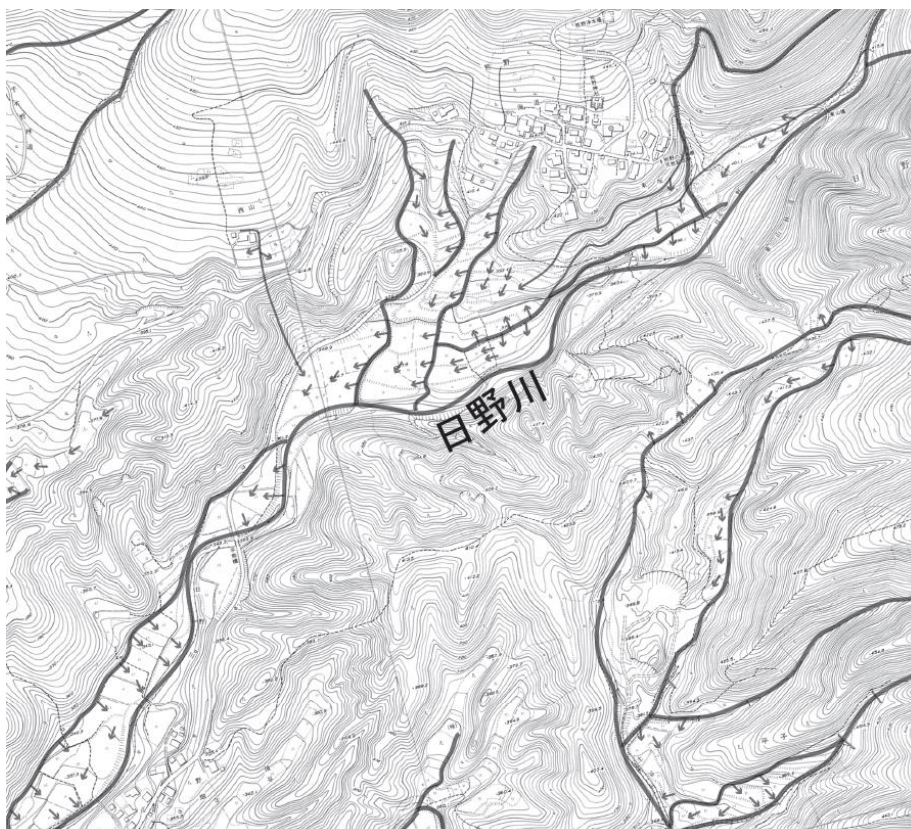
資料4. 仰木周辺図



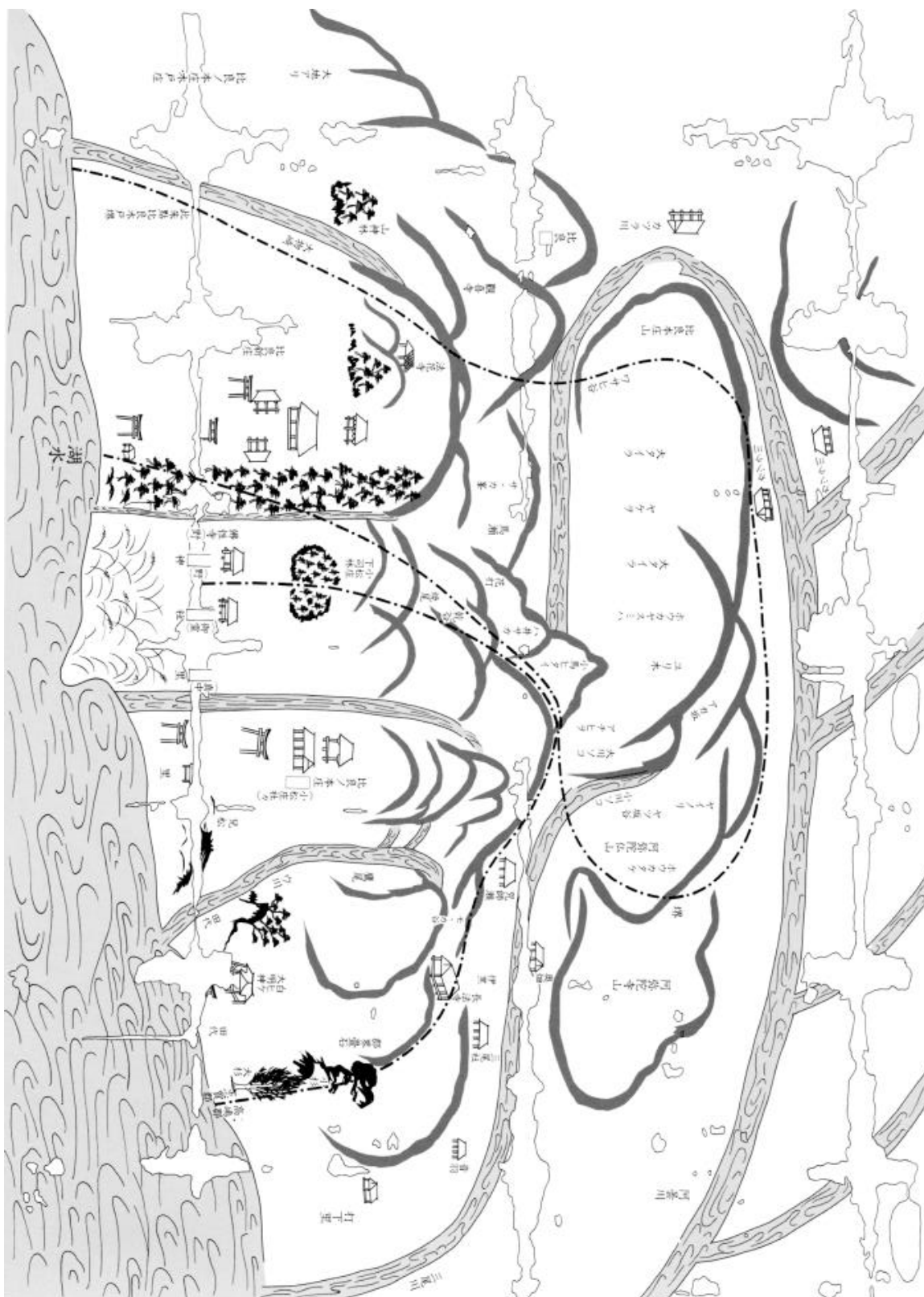
資料5. 畑水利図



資料6. 熊野水利図



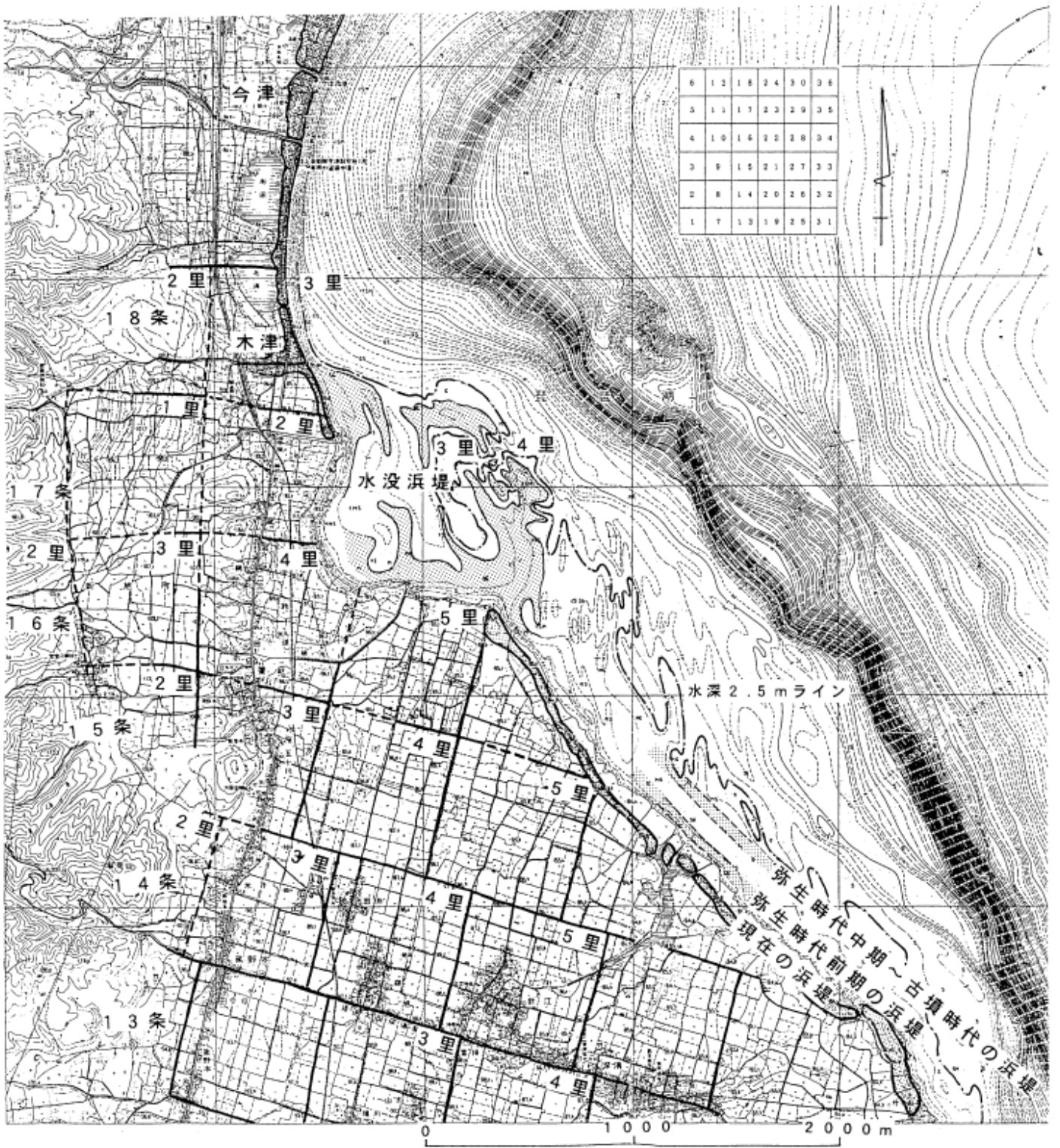
資料7. 比良荘絵図



資料8. 木津荘空中写真



資料9. 木津荘条里



資料10. 木津・畑周辺図



【 報告1 】

仰木の宮座と水をめぐる伝承

成安造形大学 加藤賢治 准教授

(成安造形大学附属近江学研究所 副所長)

●仰木に伝わる2つの伝承

① 仰木の開村伝承

667年、天智天皇が大津遷都を行うとき、それに同行した伽太夫仙人がそのまま湖岸を北へ進み、斧峠から仰木に入った。天神川の川上の浄地（滝壺）に奈良県吉野郡下市町の丹生川上社（現丹生川上神社下社）から闇籠（くらおかみ）の御霊を奉持して祭神とした。そこから棚田の開拓が始まったとされる。

② 源満仲と恵心僧都源信の親交伝承

清和源氏発展の礎を築いた武将源満仲（912～997）は摂津国（現兵庫県川西市）多田庄に居を構え本拠地としたため多田源氏と称されその祖となった。その満仲が晩年の一時期、比叡山横川の僧侶で著名な『往生要集』を執筆し、浄土思想の基礎をつくった恵心僧都源信（942～1017）を頼って、横川の麓である仰木の地に入ったという。

天禄二年（971）、満仲は摂津多田庄から仰木に移り、居を構えた。今昔物語の中では満仲の九男源賢が源信の弟子であり、父の殺生を嘆いた源賢が源信と満仲を引き合わせたとのくだりがある。

貞元二年（977）、満仲は出家し恵心僧都より法名を受け「満慶」と号し、居を寺として「紫雲山来迎院満慶寺」と称した。晩年は摂津多田に帰ったと伝えられるが、仰木の村人が満仲の去るのを惜しむという故事が例年行なわれる春祭り「仰木祭」の中で「駒止め」というかたちで残っている。寛弘二年（1005）には、満仲は小椋神社の祭神に合祀されたと伝えられる。

『三宝寺文書』「千手院沙弥超界覚書」

『小椋神社文書』「小椋神社書上帳写」

『今昔物語集』

『滋賀県庁所蔵文書』「滋賀郡神社由緒書調書」

●仰木の宮座

小椋神社の五社大権現

小椋神社（田所神社）	（上仰木・辻ヶ下の一部）
若宮神社	（辻ヶ下の一部）
大宮神社	（下仰木）
今宮神社	（平尾）
新宮神社	（雄琴千野）

●泥田まつり（仰木祭）5月3日

9：00 小椋神社にて古式例祭

上仰木、辻ヶ下、平尾、下仰木の各四ヶ村の役人と小椋神社の神主により執り行なわれる。子供による奉納太鼓（仰木太鼓）あり。10：00ごろ終了。5基の神輿が拝殿前に並ぶ

- 14:00 **集来** 四ヶ村の各在所の自治会館でそれぞれ式が執り行なわれる。終了後、各在所の役人は小椋神社へ集結
- 15:00 **七度半の使い** 小椋神社に集結後、仰木の隠居村といわれる雄琴の千野衆を迎える。
- 15:30 小椋神社の公文所にてそこを守る親村の和尚に各在所の役人が挨拶をする儀式が行われる。その後、馬駆けが行われ、5基の神輿が担がれる。
- 16:00 5基の神輿が小椋神社を出発。御旅所へ（下唐崎。虚空蔵堂の横）。餅まきが行われる。
- 17:00 **「芝座敷」「千野座敷」** その後場所を少し移し（仰木小学校前）、「芝座敷」「千野座敷」の儀式が行われる。
- 18:00 **「馬迎え」「馬駆け」「駒止め」**の儀式
- 18:30 **還御** すべての神輿が松明に囲まれながら小椋神社に戻る。
- 20:00 **ちょうちん迎え** 新村の和尚たちが5基の神輿を迎える。これにて祭りは終了。

●まとめ

開村が667年にさかのぼるといふ仰木集落は、天神川上流の浄地から始まった。

古代から比叡山（特に横川地区）との関係が深く、日本における浄土思想の祖である恵心僧都源信と清和源氏源満仲の伝承は仰木集落に暮らす人々の誇りであり、その伝承が祭礼となって今に受け継がれている。

神々しい山々から湧き出でて流れる清き命の水。集落に暮らす人々はそれらを分かち合って営みを続けてきた。

かつて、渇水があれば、日常的に水争いが起こり、集落間や個人の間でももめごとが絶えなかったとことであろう。そんな時、神々が仲裁に入ったこともあったかもしれない。

美しい棚田の風景の背後には、神仏と暮らす人々の姿が見えてくる。それが仰木の棚田である。

現在、仰木集落では、その大切な水の恵みや風習を自覚し、その豊かさを広く他地域の人たちと共有するため様々な取り組みが行われている。忘れてはならない大切なものを守るための運動である。

開村から1300年を超えた今、21世紀の新しい仰木集落の始まりである。

【 報告2 】

水と暮らしを次世代につなぐ

びわこ成蹊スポーツ大学 嘉田由紀子 学長

【パネルディスカッション】

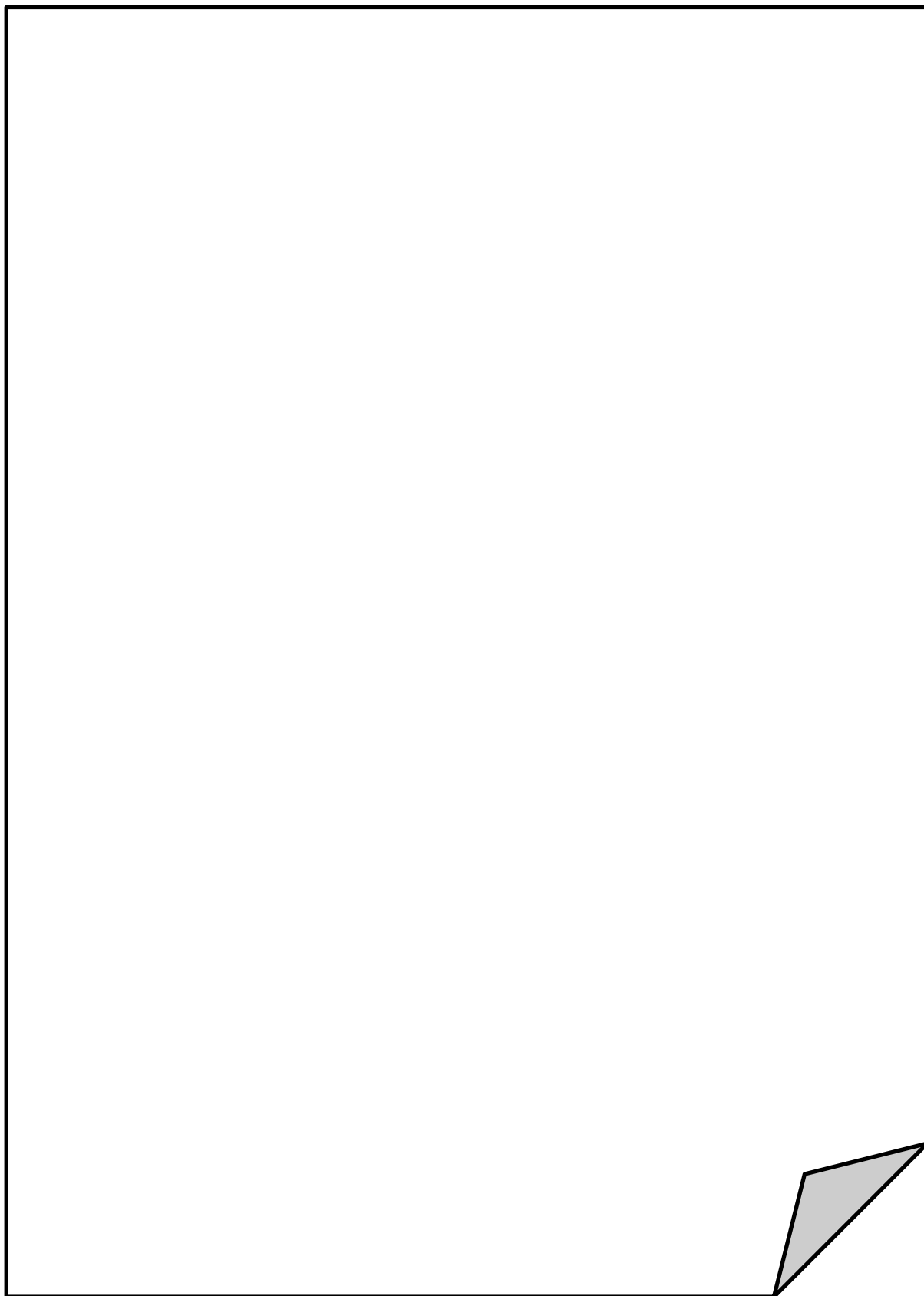
琵琶湖流域の棚田景観を読み解く ～受け継がれる水文化～

司 会： 山本早苗氏

パネラー： 水野章二氏、加藤賢治氏、嘉田由紀子氏、小坂育子氏

地域コーディネーター： 穴風光恵氏、北井 香氏

Memo



第 25 回 棚田学会現地見学会 プログラム集

□現地見学会実行委員会

- 学術アドバイザー : 水野章二 (滋賀県立大学)
 - 地域コーディネーター : 穴風光恵 (成安造形大学)
北井 香 (滋賀県立大学)
 - 研究委員 : 安井一臣 (研究委員長)
山本早苗 (常葉大学)
 - 現地協力団体 : 畑の棚田保存会、平尾 里山・棚田守り人の会、
仰木自然文化庭園構想 八王寺組
-

2016年6月25日